

添削見本～「あなたがこれまでに達成したことと、今後のキャリア展望」

※①～⑥は後述する評価項目の番号と指摘箇所に対応しています。

1. 配属・支店勤務

②入社後の1年は本店業務支援部門の配属であとになった。配属後の上司の指導を受け、~~で~~各部署の役割について頭では理解したものの、具体的にどのような業務が各部署で行われているのかまでは理解が及ばず、各方面にご迷惑をおかけした。また、全社システムについての知識も浅く、④問い合わせを受けても正確な回答を行うことができなかった。

②2年目の春より支店への配属となった。担当エリアの営業管理を行う中、入社後の1年間で理解してきた業務が、支店の現場で働くスタッフの動きに密接につながっていることが実感できた。また、同時期は支店エリアが大変な水害に見舞われた時期でもある。このため、地域貢献の一環として支店スタッフも復興支援活動を行った。④最初は金融機関のスタッフである我々が地域のためにどのような支援を行うことができるのかできないかイメージできなかったが、住民一人一人の困っている状況にしていねいに対応していく中、次第に感謝の言葉をいただけるようになり、積み重ねた経験は無駄にならず、社の信頼へと結びつくものであることを実感した。この経験は、社会から信頼される企業であるために必要な行動を初めて実感できたものであり、社での私の行動の原点となっている。

2. 本店への再配属

②5年目を迎え、3年間勤務した支店を離れ、本店に戻ることとなった。企画部門の監督職となり、広告代理店との折衝、デザイン会社との打ち合わせに多くの時間を割かれることになった。業務範囲が広く、また③金融商品のリニューアルを抱えていたため、配属直後より残業が長時間に及び、また土曜日も出勤が必須となる状況であった。監督職の立場でありながら、部下への業務の仕分けを考えるのではなく、自らが現場業務までを抱えすぎてしまったことに④起因する。この点は③今後役職者としての課題意識につながった。

その後は企画部門におけるスタッフ増員もあり、自身のみならず部下に対しても休日出勤を原則禁止とし、業務時間内で可能な限り知恵を出し、ワークライフバランスを取る部署方針とした。具体的には、日報におけるナレッジの共有、週次ミーティングによる業務進捗の共有と複数スタッフによる解消を促し、これによりチームとしての一体感が醸成されるという副次的効果を得ることもできた。

3. 地域ブロック支店への赴任

②7年目を迎え、2018年4月に地域ブロックの中心支店への異動となった。課長直属のブロック責任者を拝命し、自支店のみならずエリア内の支店まで含めた戦略立案と管理業務を行うこととなった。より強い責任感をもって業務に臨むことが求められたが、このとき各支店スタッフに強調したのが、前述の復興支援活動を通して体得した、地域との結びつき、小さな経験を大切にすることである。各支店の入金高を把握する中、数値に現れた問題点を現場の基本動作と結びつけて考える。財務諸表上の問題点が解消されない場合には、粘り強く支店に足を運び、改善施策を共に検討した。~~しかしが~~、残念ながら支店を統廃合しなくてはならない事態も起き、~~た。ときには~~支店スタッフとの摩擦も起きた。苦しい期間もあったが、自らが模範になれることについてまずは徹底しようと考え、お客様をお迎えするのにふさわしい身だしなみや言葉づかい、スタッフに対するていねいな対応等を意識した時期でもあった。その結果、同じブロック支店の後輩社員より、~~に~~ロールモデルとして私を意識している旨の発言を聞いたときは、うれしく、自信につながった。

4. 本店資金調達部門の管理職拝命

②この春より再度本店勤務となり、資金調達部門の管理職として着任することとなった。資金調達部門の仕事は初めてであり、かつ全く知識もないため不安もある。しかし、これまでのキャリアを振り返れば、異動の度に新しい業務に携わってきた。現部門でも、課員とのコミュニケーションをもとに日々業務知識を吸収しながら進めていくことで、またひとつ、会社という地図のパーツが埋まっていくのではないかと考えている。

5. 今後のキャリア展望

②これまでのキャリアを振り返ってみると、各配属先の業務のそれぞれから、さまざまな教訓を得てきたことがわかる。最初の支店勤務では「身近な経験の積み重ねが社の信頼に結びつく」、本店での再配属では「チームとしての業務負荷の解決」、地域ブロック支店での経験は「模範になれる基本動作の徹底」であった。これらを改めて見直してみると、組織での自身の成長が、社会に生きる市民としての成長と同義であることが再認識される。

管理職としての自身ができることは、これまでの経験からより幅の広い、高い視座からの業務指示、アドバイスを行うことで、自組織を活性化させていくことと認識している。また、より重要な判断を下さなくてはならない局面も多くなった。④このような重要な判断を行う際に、論理的に思考し、部下あるいは他部署

の管理職が納得できるような説明を行うことができる点も大切であろう。④そのため必要となるのは、④これまでの担当業務の経験に基づく知識だけではなく、自らが主体的に他部署の情報を取得し、俯瞰的な視座をもとに公平性が担保できる結論を導く能力であると考えている。④このことが全社の経営情報、ファイナンス情報を把握することにつながり、①⑤より大きなフィールドで活躍できるキャリアの実現に結びつくだろう。現状に満足することなく、かつよりたくさんの社員の模範となれるよう、弛まぬ研鑽を続けていく所存である。

以上

評価項目	評価	コメント
① 与えられた要件・目的について回答しているか	C	2 節で説明された休日出勤の禁止と一体感の醸成の事例については、課題で求められている「達成したこと」に該当します。他の節でも、「達成したこと」という観点から考察してください。達成と成長とが結びついた考察の先に「今後のキャリア目標」があるはずです。また、「5.今後のキャリア展望」についてですが、「より大きなフィールドで活躍できるキャリアの実現」だけでは漠然としており、問いに対する明確な回答とはいえません。この点については、⑤のコメントでどのように具体化すればよかったのか、考えましょう。
② 情報を整理し、順序だてて説明できているか	B	1 節の各段落の最初、2～4 の各節の書き出しの表現にばらつきがみられます。年号で統一するなどの工夫を行うことで、整理された印象のレポートとなるはずです。また、5 節の最初の段落で今一度これまでの論を振り返る姿勢はよいですが、この部分も表現を揃えることで整理された見せ方となります。あるいは、「1.配属・支店勤務～身近な経験の重要性」のように、教訓について各節のタイトルに入れてみると、要旨が明確に伝わるのではないのでしょうか。
③ 客観的・具体的事実を根拠としているか	B	これまでの経験について、事例をベースにしていけない論が展開できている点は評価できます。しかし、読み手があなたにとって身近な存在でない場合に、もう少し具体化したほうがより内容が明確に伝わる箇所がいくつか見られます。たとえば 2 節で番号を記した「金融商品のリニューアルを抱えていたため」の部分は、それがどのような業務であるかを説明しないと、直後の残業・休日出勤を招く事態であることがはっきりとしません。また、同じ段落の「今後役職者としての課題意識」についても、具体化できるとよかったです。
④ わかりやすく記述されているか	C	一文に複数のエピソードが詰め込まれ、わかりにくくなっている箇所があります。特に 1 節の「最初は……」で始まる一文は、「A は B できなかったが、C していく中 D をいただけるようになり、E にならず F を実感した（一文に 6 エピソード）」になっています。わかりやすい文章は「一文 1 エピソード」とされています。また、対象が明確になっていない部分（「問い合わせを受けても」「起因する」）、指示語が多用されている部分に番号を付しています。相手にとって伝わりやすい文にするにはどうすればよいか、考えてみてください。
⑤ 適切な考察がなされているか	B	これまでの経験をていねいに振り返ることはできています。残念だったのは、これらの経験から今後のキャリアビジョンをより具体化するところまで至らなかった点でしょう。最終段落の「より大きなフィールドで活躍できるキャリアの実現」とは、あなたにとってどのような内容なのでしょう。振り返りで得られた教訓を、その後のあなたのキャリアにどう生かし、あなた自身がどのようなことを実現したいのか、この機会により具体的に検討してみてください。
⑥ 表現・表記は適切か	A	以下、気づいた点を挙げておきます。 ・助詞「で」によりつながりが不明確になってしまった部分 ・逆接の「が」 について修正を入れました。参考になれば幸いです。